

「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	飛騨市	学校名	飛騨市立古川小学校		
校長名	上口 淳	対象学年	全校	人数	402人
項目	○	① 小・中学校の関連性や発展性を踏まえた実践や、幼稚園、高等学校、特別支援学校等と連携を図った実践			
該当する項目1つ 以上に○を付ける	○	② 県内施設や地域人材等の外部資源を活用し、岐阜県が誇る自然・歴史・文化・産業等の体験を通して学ぶ取組を効果的に位置付けた実践			
	○	③ ふるさと学習を核として、総合的な学習の時間と各教科、特別の教科道徳等との関連を図った教育課程を編成し取り組んだ実践			
学校の教育目標	心豊かにたくましく 未来を切り拓く ～自分から・自分なら・みんなと～				
活動のねらい	ふるさと飛騨古川の自然や文化・地域に貢献している方の生き方を知ることから、自分も地域の一員であり担い手であることを自覚し、地域との関わりについて考え、発信していく活動を通して、めざす資質能力である「未来を切り拓く力～自分から・自分なら・みんなと～」を身に付けることができる。				
活動の特色・児童生徒の変容など					
1 ふるさとアドバイザー（FA）制度による地域講師・地域素材の活用					
学校運営協議会が主体となり、各学年に「ふるさとアドバイザー（FA）」が配置され、学年のテーマやねらいに応じて地域講師や地域素材を紹介してもらったり、一緒に活動を考えたりしている。					
1年生テーマ「しぜんとあそぶ しぜんであそぶ」					
生活科の「いきものとなかよし」では、古小サポーターの方に千代の松原公園でバッタやトンボの捕まえ方を教えてもらったり、虫と一緒に触れ合ったりした。子どもたちは、古川の「自然」を学ぶとともに、地域の方々とふれあうことで、地域の方に見守られ支えられていることを実感できた。					
					
2年生テーマ「古川の町探検 ～町を知る、町の人を知る～」					
 生活科の「町たんけん」では、古い町や瀬戸川沿いを学年で探検することを通して、知らなかった古川の「くらし」の様子に気付くことができた。また、秋にはハートピア古川などの公共施設を見学し、それらの施設が、地域の人たちのためにあることに気付くことができた。					
3年生テーマ「古川食自慢 ～飛騨の食～」					
古川の「食」について知ることを通して、命の尊さについて考えた。給食センター見学では食のリサイクルについて、アスパラガス農家や蒲生畜産見学では私たちの命へとつながる植物・動物を大切に育てている方の思いについて知ることができた。ふるさとの食やそれに関わるものを調べることを通して、毎日生きていくために生き物の命をいただいていることを実感し、命に感謝していきたいという思いをもつことができた。					
					
4年生テーマ「人にやさしい古川」					
「福祉」について、飛騨市社会福祉協議会の藤木さん、飛騨市障がいのある人を支える会「ピース」の奈木さん、高山病弱児を守る会「あかりんぐ」の勝田さん親子、「わたしの助産師さん むすび」の長田さん、					

(様式1) 小・中学校、義務教育学校、特別支援学校(小・中学部)用



視覚障がい者の下梶さんより、それぞれの立場から講話をしていただいた。今後は、車いす体験や高齢者疑似体験を通して、実際にどのような生活をしているか、どのような困り感があるのかについて考える活動を行い、学んだことをプレゼンテーションで発表する。

5年生テーマ「飛騨の米作りについて調べよう」

地域で米作りを行っている田中さんの指導を受けながら、米作りに挑戦した。田んぼに入ると、たくさんの生き物が生息していることが分かり、興味をもって生き物の学習を行うことができた。今後、収穫した米で五平餅やおにぎりを作ったり、学んだことをまとめて発表したりして、「米の魅力」について学んだことを形にしていく。



6年生テーマ「ふるさとの魅力を学び・広げる」



古川の魅力について、講師の方の話を聞いたり、自分たちで調べたりした。講話で「祭り」「飛騨の匠」「飛騨の町並み」「増島城の歴史」「飛騨の薬草」について聞き、考えを深めた。その後、学んだ内容から伝えたいテーマを選び、パンフレットやプレゼンでまとめ、発表や展示をしていく。

全校テーマ 「防災教育」

飛騨市防災士会と連携して、低学年(1～3年生)と高学年(4～6年生)に分かれて、避難所設営訓練を行った。低学年は、避難する際に「自分なら」防災リュックに何を入れていくかを考えた(自助)。高学年は、避難所で使われる簡易トイレやエアベット等を見たり、避難所で自分にどんなことができるかを考えたりした(共助)。こうした活動を通して、自助・共助の意識を高め、避難所での生活を具体的にイメージすることができた。



5年生では、飛騨市防災士会とも連携して通学路のハザードマップを作成した。保護者とともに通学路を歩いてもらい、防災の視点で危険な場所や避難の助けとなる箇所を確認した。それを、通学班集体会で班員にアウトプットする予定である。

「自分の命を自分で守る」ための知識を得て、実践を重ねていくことで、防災意識を高めていく。

2 学校運営協議会と児童会、学校職員が一体となった取り組み

6月には、「こんな学校にしたい!」という児童会の願いを学校運営協議会に伝え、協力をお願いする「児童と語る会」を開いた。9名の委員長が、「笑顔満点～みんなで仲良く交流～」の古川小を実現するために、熱い思いや願いを語った。放送委員による地域の方へのインタビューや地域の方とのスポーツ交流など、関わりを深めていくことを約束した。



3 児童の変容と今後の課題

○ふるさと教育の柱として「生命尊重や生きる喜びを実感する6年間の防災教育」を置き、自然や食、郷土等すべての活動の軸を整えたことで、目的を明確にして活動できた。このことは年度当初にFAや防災士会との打ち合わせでも共有したため、学校と地域が同じ視点で児童の指導にあたることができた。

○学校運営協議会と児童が直接意見交換する場を設け、願いを共有したことで、地域の方が積極的に関わってくださったり、児童が地域の一員としての自覚を高めたりすることにつながっている。

※目指す資質能力「未来を切り拓く力～自分から・自分なら・みんなと～」を身に付け、ふるさと飛騨古川を愛する児童を育てるために、今後も地域とともにふるさと学習を推進していきたい。